

着物侠客

岡部 竜弥

〈基本情報〉

登場人物

財津敬士(ざいつけいし)

末延光(すえのぶひかる)

【前説】

舞台上に、男が立っている。

男は学ランを着ており、上から着物を羽織っている。
手には竹光を持っている

初めまして。今回、即席ユニットちりあくた、ロクコレ参加作品「着物侠客」にて、財津敬士（ぎいつ けいし）役を務めさせていただきます、○○（役者名）です。

本日は、お越しいただき、誠にありがとうございます。

開演に先立ちまして、ご来場のお客様に幾つかお願いがございます。携帯電話、時計のアラームなどの音の出るものは他のお客様の観劇の妨げになりますので、あらかじめ音の出ない状態にしておいてください。そして、現在このようなご時世ですので、マスクを外したり場内での飲食といったことはお控えください。

えー、ここまでが今回、というより、演劇を見に行く際に気を付けて欲しいことになっております。

そして、ここからが、お願い、というより、言い訳、になるのですが。

今回、一人芝居、ということ、私、○○が財津敬士以外にも複数の役を演じます。

えー、名前のついていないような役どころを合わせると、おおよそ二百ほどになるかと思えます。どうか混乱なさぬように。

そして、ちりあくたという劇団、若手の劇団ということもあって、かなりお金のない劇団となっております。そのため、いま私が着ているこの、学ラン、その上から羽織っているこの着物、そして、今手元を持っているこの竹光を購入した時点で予算が尽きてしまいました。私に払われる出演料も大きく関係していると思えます。

ですので芝居中、行われる衣装チェンジ、そして小道具を、これらのみで行うこととなります。

例えばこの様にコートを羽織り、この刀を杖にして歩いているご老人に私が扮したとして、それは、この芝居の出てくるこの場所が、学ランの上から女物の着物を羽織った上、刀を持ち歩くジジイが闊歩するような銃刀法もない所だというわけではない、ということを念頭に、この舞台をご覧ください。

えー、以上を持ちまして、今回の舞台を見る前のお断り、ということにさせていただきます。

えー、っとこれから、この芝居の本編を開始しようと思っておりますが、どうしましよ、せっかくだったら、先程言ったことの復習として、こちらの竹光、これを映画撮影でよく使われるカチンコと見立ててみましょうか。

男、刀を鞘から半分抜き、縦に持つ。

この竹光が、こう、自然落下で鞘に収まる瞬間に鳴る音、これが映画のカチンコです。みなさん、疑わない。行きますよ？
即席ユニットちりあくた、ロクコレ参加作品「着物侠客」、シーン1、
よーい

男、刀の本身から手を放す。

刀が自重で鞘に収まり、音が鳴る

暗転

【1】

財津敬士が、舞台に立っている。

刀と着物は床に置いてある

鳩が飛ぶ音と書いて音鳩（おとほと）市。

栄えて繁ると書いて栄繁（えいはん）町。

横の人を迎えると書いて横迎（よこむかい）高校。

スポーツが盛んで、どの部活も県や全国大会の常連

その二年生が、僕、財津敬士です。

好きな食べ物は何ライイス、そして嫌いな食べ物はパクチー。

趣味は映画鑑賞、特に時代劇。

運動は好きじゃないです

17歳です。

そんな僕の、2012年の、11月からの話。

財津、刀を手を持つ

早速ですが。

財津、刀をまたで挟む。

これは、自転車で学校に通っている時の僕。

毎朝六時半に起きて、七時に家を出ます。

住宅街を通る時に犬を飼っている家の前を過ぎるので、毎回自転車のベルを鳴らして挨拶をします。

財津、ベルを鳴らす（刀を鞘に納めるときの音）

五、六回に一回の確率で、犬の「ワウツ」という鳴き声の代わりに家主の「朝からうるせえぞ！」という声が返ってきますが、その際は無視します。

その後は特に気になるポイント、というところはないので、基本的に頭の中で好きな映画や昨日の夢について考えます。

そして、右左折を三回ほど繰り返し、大体五、六キロほど、自転車で行ったところで学校に着きます。

財津、自転車から下り、スタンドを立てる

そして、ほぼ毎日、この駐輪場でクラスの中心である男女グループに絡まれます。

「あ、おはよう」

だいたいここで僕のこの、上腕二頭筋の辺りをグーで殴られます
所謂、肩パンです。

クラスメイトに肩を殴られそうになる

財津、刀を半分抜き、受け止めるような構えをとる

このように、刀の刃で受けてしまうことができれば話は早いのですが、今この場においてこれはスクールバックです。そして、スクールバックである以上、中には教材が詰まっております、大変重く、これで受けようとしても大変緩慢な動きになってしまうため、到底防御なんて間に合いません。

「あ、いたっ。いた、痛いよ。も〜」

と、彼らが欲しがっているであろうリアクションをすれば、大抵は満足して行ってくれるので、そうやってやり過ぎします。

彼らとは中学校の部活が同じでした。チームメイトとマネージャーです。ですので、建前上お友達です。

彼らが、居なくなるのを見届けてから下駄箱に行くと、一年の時同じクラスだった末延光（すえのぶ ひかる）君と会います。僕が下駄箱に来た時に決まって会うんですが。これは偶然ではなく、いつも僕のことを待っていてくれるようなのです。

彼曰く僕意外に、友達がいらないとのこと。

こういった話を聞くと、僕は決まって返す刀でこう返します。返す刀で

「俺だって、光君くらいしか友達いないよ」

返す刀で。

そうです。僕たちはお互いにお互いしか友達がいらない、スクールカーストの中では最底辺の二人なのです。

僕たちは遅刻とかそう言った悪目立ちをしたくないので一応早めに学校に来ます。しかし、早めに教室に入って先程の中心グループの奴らと長い時間いるのも嫌なので、授業が始まる直前まで、移動教室で使う部屋がたくさんあり、この時間には人がめったにこない四階で時間を潰すことにしています。

財津、どのような四階への移動を表現するか悩み、着物を四つ折りにすることでそれを表現する

これで四階です。

一年早く片付けろー

授業始まるぞー

やば、宿題忘れた

小テスト範囲どこだっけ？

こういった会話が、きつと百人分は響いているであろう校内で、僕たちはいつも二人だけ話していました。これで百役、演じました。

好きな映画、の、好きなシーン、台詞、カット、BGM、原作の話をしませう。

光君も映画が大好きなのです。

二人とも、派手に血しぶきが舞う殺陣が出るような、少々過激なジャンルのものが好みでした。

ここにいたことがばれないように、あっちの窓際には行かず、電気も点けずにです。

学校で、唯一の友達が、同じような映画の趣味をしていた。これほど幸運なことはありません。

財津、刀をカチカチ鳴らす

ほら、光君も笑っています。

鳩が飛ぶ音と書いて音鳩（おとはと）市。で、鳩の羽音が聞こえるほど平和じゃなくても栄えて繁ると書いて栄繁（えいはん）町。で、栄えて繁るほどの友達がいなくても横の人を迎えると書いて横迎（よこむか）高校。で迎えるべき横に光君がいました。

財津、言いながら着物を布団に見立てて入る、

どんなに嫌なことがあった日でも、光君と話すあの朝の時間さえあれば、僕はぐっすり眠れるのです

財津、刀を電気の紐に見立てて、引く

鏝が鳴る音がし、場転

財津、着物を布団にして寝ている

目覚まし時計のアラームが鳴る。

財津、アラームを止める（刀の鏢を鳴らす）

今日は土曜日。学校も休みです。

学校も休みですが、早めに起きます。

土曜日の午前にはやることがあるのです。

いやあ、しかし何でしょうね。この、学校がない日に着る学生服のなんとも言えない背徳感。いけないことをしてる気持ちになります。

財津、自転車に跨る。

一応確認ですが、これは自転車に乗っている時の僕。先程と——学校に向かう時と同じです。

ですが今回は向かう先が違います。

右左折を四回繰り返した先にある公園。

その入り口に自転車を止めて、敷地内に入ると

「おーい」

と光君が大きめのカメラを持って立っています。

彼も制服姿です。

「おはよう」

なんて挨拶をし、彼はカメラを僕に渡します。

財津、何をカメラにするか悩んで着物を丸めてカメラにする

このカメラは彼のお父さんの物で、土曜日になる度にこっそり持ってきてくれるのです。

……僕たちは、映画を撮っています。

光君が僕が監督。そして見るのも僕ら二人だけ。

「今日は、どうしよう……。また殺陣のシーンしよっか」

……脚本は無しで、行き当たりばったりで撮りたいシーンを撮っています。設定だけをちよっと決めたりして。

とまあ、こんな感じです。

なんとなく、お互いが好きな刀を使った殺陣のあるアクション映画ということにはしていますが、侍を出すには鬻（まげ）も刀も、着物も無いので。……無いので。

舞台を現代、主人公を高校生、刀は……さすがに妥協できなかったので持っている体で……

もちろん、僕らの家に編集用の器材とかそういうったものは無いので、碌なものではできません。というかテープが一本しかない上に、一度とったものの消し方もよく分からないのでリメイクができません。囁んだり笑ったりした所もそのまま入ってしまっています。いのように言くと、全編一発撮りです。

演技もひどいものです。へっぴり腰で猫背、声は常に上ずって震えています。

そもそもこの制服だって、光君が、自分だけ制服姿なのは恥ずかしいというから着ています、彼は恥ずかしがり屋なのです。

「ほら、光君。そっち立って」

ストーリーも編集もなく、きっと一般的に言うところこれは映画じゃないのでしょうか、いいんです。僕たちの映画なんですから

問答無用に悪を切り伏せ、男の話

着物侠客！

シーン4よーい！！

財津、刀の鏢を鳴らす

時は2012年、学生服を身に纏い歩く男の腰には現代には不釣り合いな長物が。

そう、彼こそは、「着物侠客」。祖父母の家から引っ張りした日本刀を手に、日々、悪漢を成敗する。装束こそ学生の出で立ちではあるが、その心には立派な錦を着込んでいる。

物語の中でしか見たことのない着物姿を夢に見ながら彼は言う「斬った張ったの稼業じゃねえが、あんたらの悪行、捨ててはおけないね」

そう啖呵を切って刀を抜くと、悪漢たちに向かって歩を進めていく――

言いながら、刀を完全に抜きそうになった所で暗転

財津、自転車に跨っている

財津、自転車のベルを鳴らして犬に挨拶する。

犬から返事が来る

ワウ！

財津、ぼーっとしながら右左折を二、三回繰り返し、学校に到着する

財津、自転車から下り、スタンドを立てる

クラスメイトがやって来る

あ、おはよう……

クラスメイトに肩を殴られそうになる

財津、刀を半分抜き、受け止めるような構えをとる

が、それは頭の中だけなので、実際に殴られる。

あ、いたっ。いた、痛いよ

財津、下駄箱で末延と会う。

四階に行き、二人で映画の話をする。

じゃあ、次どうする？最近殺陣ばっか撮ってたからさ、いい加減日常シーンとか。

…だね、誰に見せるわけでもないし！

じゃあさ、次誰切る！？今までだと、汚職政治家でしょ、汚職警察官、汚職弁護士、汚職社長。…なんだ全部汚職ばっかだな。そろそろ別の感じの悪人にしよう。いや、ライバルみたいな相手と決闘とかでもいいんじゃない？

…いやあ、さすがに実在する人はだめじゃない？

そりゃあ、確かに普段もカメラには光君しか映らないよ？てか映せない？役者光君しかいないし。ずっと公園で「斬った張ったの稼業じゃねえが、あんたらの悪行、捨ててはおけないね」って言って人切ってるだけだぞさ。

…いや、確かに、俺もあいつらのこと嫌いだけどもさあ…

ていうか嫌じゃない？俺たちの映画にあいつら出るの。

…でしょ？この映画には、あいつらは出さない！それでいい？

…うん

二人、楽しそうに笑い合う。

刀の頭の部分を光のこぶしと見立ててグータッチをする
うえーい

チャイムの音になる。

あ、やば、急ごう！

財津、織っていた着物を広げ、二階を表現する。

財津、二階の教室に入る。するとすでに授業が始まっていたようで、
気まずそうに会釈して入る

すみません。遅れました。

クラスの中心人物たちにいじられる

いや、違う違う！ トイレだよ！

先生に私語を注意される。

いじってきた中心人物たちは、素知らぬ顔をしている

…すみません。

財津、授業を聞いている。

だんだんとうとうとして来るが、先生に英語の朗読を当てられる。

は、はい！

刀を鞘から半分出し、教科書を表現する。

どこのページを読むか分からなくなり、隣の人に教えてもらう。

最初は発音よく言おうとするが、周りの雰囲気を見て日本語っぽく発音する。

He is well liked at school. He has many friends and is active in club team.

はい、はい。すみません。

.....

チャイムが鳴る。

授業終わりの号令が入り、挨拶をする

ありがとうございました

教科書を片付けると、中心グループの何人かがやってくる。

いたっ、普通に呼んでよ！ ははは。

……いやいや、本当にトイレだって！

……図書館で本読んでたら時間忘れちゃって、ぎりぎりになったの！

……いや、今日は何にも借りてないから。はははっ。

時間は進み、帰宅途中

……解っているんです。僕と光君が仲がいいことが中心グループの彼らにばれたら、光君に嫌なちよっかいをかけるかもしれない。だから言わない様にしよう。光君ともそう話していましたし。彼も納得していました

……でも、今日のごまかしは、そういう意味じゃなかったんです。

……僕は僕を大事にしてしまったのです。

無性に彼に謝りたくなりました。彼からすると、謝ることじゃないかもしれませんが。

奈良代わりに会って一発殴って欲しいと思いましたが。殴られるほど仲がいいのであればですが。とにかく、何か――

ああ、何か忘れている気がする。ああ、そっか自転車と鞆を忘れたんだ。馬鹿だな僕は。明日から土日だぞ。

財津、自己嫌悪で歩みを止め大きな声で呻く。

財津、ぽつりと「映画」とつぶやき歩き出す

財津、家に帰る

母のおかえりを無視して僕は二階に上がりました。今は亡き祖父母の部屋。その押し入れの奥の奥。

ごめんなさい。僕は光君と皆さんに嘘をついていました。刀もあります。和服もあります。両方とも、祖父母が遺していききました。

財津、刀と着物を抱える。

バレたら、怒られると思ったから。そんな理由で、これらを持っているということ的秘密にしてみました。こんな場所にしまい込んでいる物なんて、無くてもバレるはずなのに光君は、カメラを持ってきてくれていたのに。

財津、着物と刀を抱きかかえたまま朝になる。

財津、昨晚からずっと起きていたようで、着物と刀を抱えている
目覚まし時計のアラームが鳴った瞬間に止める

財津、歩いて公園まで向かう。

手には「着物」と「刀」を持っている。負い目があるため歩みは遅い
公園に到着する、光君が先に来ていたようだ

財津、光君の楽しそうな顔を見て、罪悪感を覚える

光君、からの挨拶にぎこちなく返す

おはよう

光が財津の持っている物を不思議そうに見ている。

財津、申し訳なさから来る神妙な面持ちで光に近づく。

光の顔を見て堰を切ったようにべそをかく。

……ごべん！

「俺、光君に。嘘ついてた。本当は家にあっただ。刀と着物。でも怖くて！怒られ
るのが！光君だって同じなのに！ 本当に、本当に、ごめん！」

と、本人は言っているが、べそをかき過ぎて何と言っているか分からない

財津、刀と着物を差し出すようにして謝る。

光、財津に話の内容を聞き返す

え？

財津、

「俺、光君に。嘘ついてた。本当は家にあっただ。刀と着物。でも怖くて！怒られ
るのが！光君だって同じなのに！ 本当に、本当に、ごめん！」

と言うが、伝わらない

光、また聞き返す。

いや、だから

財津、もう一度

俺、光君に。嘘ついてた。本当は家にあっただ。刀と着物。でも怖くて！怒られる

のが！光君だって同じなのに！本当に、本当に、ごめん！」と言うが、途中で遮られ、「頼むからもっと落ちついて話して」と言われる。

財津、所々なんて言ってるか分からなくなりながらも、もう一度、謝罪の内容を口にし、頭を下げる。

光、財津の手を取る

え？

光、財津のことを許すような内容のことを言う。

いいの…！？

光、財津に抱き着く。

財津、感極まって泣き出す。

ごめ〜ん！！光君、ごめ〜ん！

傍から見ると、小脇に着物を抱えて刀に抱き着いている男に見える。

なんか、今、どれを何として使っているのか分からない。

いま、これ、どれがなに〜

財津、しばらく泣いた後光と向き合う

光君、映画、これ使おう。

……そうだよ。本物。許可証があるやつ。

大丈夫。この時間帯警察官とかも通らないし。だいたい、おもちゃ振り回しているようにしか見えないよ。

…うん。

ほら、光君。持ってみて。思ったより重いでしょ？

着物は、女ものだけど、それはもう、妥協しよう

はははっ

刀を持つ光君は、すこし困惑しているようでしたが、とても、嬉しそうでした。

少年、自転車に乗りながら話している

それからいっそう、僕たちの仲は良くなりました。

廊下ですれ違った時、以前はお互いに気付かないふりをしていたのが、会釈くらいはするようになり

財津、自転車のベルを鳴らして犬に挨拶する。

犬から返事が来る

数日に一回くらいは昼休みの時間もいっしょにあの場所で昼ご飯を食べ、時たまくだらないことでじゃれ合いのように喧嘩をするようになりました。

財津、ぼーっとしながら右左折を二、三回繰り返し、学校に到着する

財津、自転車から下り、スタンドを立てる

クラスメイトがやって来る

まあ、そのせいで、あの建前上の友達がほんのちよっただけ違和感を感じているようでしたが、まあ、大丈夫でしょう。

財津、下駄箱で末延と会う。

一番変わったのは、映画の出来です。

そりゃあ、そうだろうという話なのですが、刀や着物を本物にすることでかなりクオリティが上がりました。まあ、だからと言ってプロの人たちから見たら全然なのでしょうが。

四階に行く。

財津と光る、周囲を見渡して誰もいないことを確認する

よし、だれも来てないよ

財津、光のカバンからカメラを取り出す

本当に良かったの？ 学校にまでカメラ持ってきちゃって？

…いや、確かに学校のシーンもあった方がいいんだろうけどさ。

そういうことじゃなくて、

…まあ、そうだね。じゃあ、早く撮っちゃお。準備して。

えーっと、学校の授業を受けるシーンにしよ。

そうそう窓際のほうに立って。え？あ、確かに。じゃあ、黒板が見えるように取ろうか。ていうか変わったね。光君

いやいや、こう、たまたまいとかだよ。確かにまだへっぴり腰で猫背だし、声は上ずって震えてるけど、それでもずいぶんましになったよ。

光、怒って財津をぼかぼかと殴る

あはは、痛、痛い、痛いよー

いやでも、本当に変わったよ

ちよつとこつち来て

これがビフォー

刀を使ってこれまでの光を表現する

そして、アフターがこれ

一連で見せるとこんな感じ

ライザップのCMのBGMを口ずさみながら変化を見せる。

かなりの進歩だよ！！

光、怒って財津をぼかぼかと殴る

え？ いやあ、俺なんて変わりようがないでしょ。監督兼カメラマンだよ？

光、先ほどの下りを財津にやらせる。

こんな気分だったんだね。

…だめだ、こんなことやってる場合じゃない。

そろそろ撮ろう

財津、「ああ、もうちよつと右」などの指示を出しながらカメラとカチンコを構える。

いいね、あちのほうに目線飛ばして

着物侠客、シーン6よーい

ガシャーンと音が鳴る

と、カメラが床に落ちました。

と、同時に音が途切れます。

と、同時に肩に強い痛みを覚えます。

と、同時に後ろを振り向くとそこには建前上の友達がいきました。

と、同時に怒りのあまり顔をぶん殴ってやろうと振りかぶろうとした手がそのまま上に上がって――

「ああ、おはよう」

と、よくわからない声になりました。あれ、そう言えば、今日彼らと会ってないな。そりゃそうか、だっていつもより早いめに来たんだもの。

と、至極当たり前のことに気付いたのは声が出るのとほぼ同時です。

と、ぐちゃぐちゃになった頭の中でぐるぐるぐるぐるぐると考えていると

「あ、やばっ。ごめん。見つけてテンション上がっちゃった。」

「あーあ」

「何してんのよー。ごめんねえ。」

「ほら、お前も謝れよ」

「だから、ごめんって！あと、そっちの奴も、ごめん。てかこんなところで何してんの？」

と、なんというか毒にも薬にもならないような会話を続けている彼らが見えました。

と、同時に何やら怒りとも何とも言えない、ただ胃の辺りがぐるぐるぐると蠢くような感覚に襲われました。

と、思うとすぐ、そのぐるぐるが手の辺りにまで登っていく行き、先程の「おはよう」の手が振りかぶるような形へと変わっていきます。

と、半ば他人事の様子にこの手の行く末を見守っています。

と、その手はそのまま――

「痛いよー。もー」

と、先程痛みが走った部分にそえられました。

すると、彼らは僕のこの反応を水に流したが故だと思ったのかそのまま帰っていきました。

財津、溜息を吐く。

と、僕が安心していると。

光、壊れてしまったカメラを抱きかかえている

と、光君が壊れたカメラを抱きかかえてひっそりと泣いていました。

「ごめん。光君」

と、彼の背中に手を添えました。

「悪いのは、あいつらでしょ」と、光君は言います

「ごめん、ごめんね」

と、泣きながら謝ると

「悪いのは、あいつらだよ」と光君は言いました

「ごめん」と、それでも僕が何度も謝ると

「悪いのはあいつらだ」

と、聞いたことないくらい大きな声で言いました。

光、段々と呼吸が深く、荒くなっていく（刀の抜き差しで表現する）

光君の呼吸は段々と荒くなり、そして確かに深くなっています。

「光君、光君！」

財津、光の背中を撫でる。

その間、財津は「光君！ 光君！」と声をかけ続ける

段々と刀が抜けていき、抜け切る瞬間に、暗転。

財津、着物を布団にして寝ている
目覚まし時計のアラームが鳴る。

財津、アラームを止める（刀の鏢を鳴らす）

財津、自転車に跨っている

財津、自転車のベルを鳴らして犬に挨拶する。

「うるせえぞ！！！」

財津、ぼーっとしながら右左折を二、三回繰り返し、学校に到着する

財津、自転車から下り、スタンドを立てる

クラスメイトがやって来る

あ、おはよう……

クラスメイトに肩を殴られる

あ、いたっ。いた、痛いよ。もう

財津、下駄箱で光と会う。

光、刀を手を持っている

財津、光が使用していることに気づき、同油脂ながらも声をかける。

え？

いや、駄目だよ、学校に刀なんて持ってきたら
ていうか、着物も！ 没収されちゃうよ

光、財津に「おはよう」と言う

ああ、おはよう。

——— じゃなくて！

いや、だから———

光、財津の横を通り過ぎて行く

財津、それを引き留める

駄目だって！

光、立ち位置が変わって財津に背を向けている。

我慢しよう！？

今回のこともさ、お金貯めてカメラ買えばいいじゃん！

二人で貯めたらきつと早いよ！

ね？ もっといい映画を撮りなおそう

だめだって！！

光君！！！！

光、一瞬だけ財津の方を振り向くと、彼のことを無視して進んでいく

財津、光を止めるようになしぐさで着物を羽織る

光君は、僕の言ってることを無視してずんずんと進んでいきました。

彼は、「おはよう」とだけしか言いませんでした。

呆然としていると遠くから何か声が聞こえてきました。

鏗を鳴らして笑い声を表現する。

笑い声です。

光君の笑い声です。

光君が

刀を半分くらい抜いて持ち上げる

おーきな声で笑っています

刀を放し、自由落下によって音が鳴る

時は2012年、学生服を身に纏い歩く男の腰には現代には不釣り合いな長物が。

そう、彼こそは、「着物侠客」。祖父母の家から引っ張りした日本刀を手に、日々、悪漢を成敗する。装束こそ学生の出で立ちではあるが、その心には立派な錦を着込んでいる。

物語の中でしか見たことのない着物姿を夢に見ながら彼は言う「斬った張ったの稼業じゃ

ねえが、あんたらの悪行、捨ててはおけないね」
そう啖呵を切って刀を抜くと、悪漢たちに向かって歩を進めていく――

言いながら、刀を抜く

進めて行くと、光君は、全部台無しにしてしまいました。

撮影の時より確かな足取りで

撮影の時より伸びきった背筋で

撮影の時より大きな声で

光君は、誰かを、斬りました

遠くから叫び声が聞こえました。

その叫び声が、誰かの叫び声と重なって、それがまた他の人の叫び声の呼び水となって
学校中が叫び声で溢れかえりました。

「たすけて!!」「だれか!!」

まるで映画のように、嘘のように、声がなり続けました。

「たすけて!!」「なんで!!」

「もうやめて」

と誰かが叫んだ

チャイムが流れる。

チャイムが流れてきました。

学生の習性か、この音を切っ掛けにあれだけうるさかった叫び声が、ピタッと止まりました。
先程までが嘘みたいに静かです。

まるで、遮る物が何も無いかのよう。

財津、どこにいるかわからない光に向かって叫ぶ。

光君!! ごめん!! 僕が弱いから、ずるいから!

光君が! 大事だよ! あの映画も! 大事だよ!

だからさ! だからさ!!

財津、もう何もかも手遅れで、何を言っても遅いため、「だからさ」の跡が続かない

遠くから光君の声が聞こえる。(さやに納まる時の音)

財津、何かに気付き四階に移動する。

光君！

光、窓際に立って財津に向かって語り掛ける。

光、財津に「着物、汚してごめん」と言う

いいよ、気にしないで、そんなの！

それより、それより！

財津、心配とも、怒りとも、悲しみとも取れない顔で光を見る

光、財津に刀と着物を返す

いいよ！！！返さなくて！！！！

…洗って返してよ！！お願いだから！！

財津、光に着物を着せる。

光、少し笑って窓の方向に歩いていく

光くん？

光、窓の方向に歩いていく

待って！！

光、窓から飛び降りる（着物と刀をはためかせながら落とす）

暗転

【8】

財津、着物を布団にして寝ている

目覚まし時計のアラームが鳴る。

財津、アラームを止める（刀の鏢を鳴らす）

財津、自転車に跨っている

財津、自転車のベルを鳴らして犬に挨拶する。

「わんっ」

財津、ぼーっとしながら右左折を二、三回繰り返し、学校に到着する

財津、自転車から下り、スタンドを立てる

財津、校舎に入る

〈終わり〉

参考文献

デイヴ・カリン（2010） 「コロンバイン銃乱射事件の真実」（堀江 里美）河出書
房新社